

2. 入試関係

(1) 入学定員超過

2014（平成26）年度大学基礎データ表3に基づく、入学定員超過率は下表のとおり。

【2014（平成26）年度入学定員超過率】

（表1）

研究科・学部名	専攻・学科名	入学定員			収容定員		
		定員	入学者	超過率	定員	在籍者	超過率
先端科学技術研究科 （博士後期課程）	数理学専攻	3	1	0.33	9	2	0.22
	電気電子システム工学専攻	5	1	0.20	15	2	0.13
	情報通信メディア工学専攻	5	4	0.80	15	11	0.73
	機械システム工学専攻	5	0	0.00	15	9	0.60
	建築・建設環境工学専攻	3	2	0.67	9	6	0.67
	物質生命理工学専攻	3	3	1.00	9	9	1.00
	先端技術創成専攻	5	1	0.20	15	9	0.60
	情報学専攻	3	0	0.00	9	5	0.56
未来科学研究科 （修士課程）	建築学専攻	60	41	0.68	120	93	0.78
	情報メディア学専攻	35	31	0.89	70	77	1.10
	ロボット・メカトロニクス学専攻	*150	40	0.80	90	108	1.20
工学研究科 （修士課程）	電気電子工学専攻	60	47	0.78	120	108	0.90
	物質工学専攻	25	22	0.88	50	53	1.06
	機械工学専攻	55	59	1.07	110	110	1.00
	情報通信工学専攻	30	26	0.87	60	52	0.87
理工学研究科 （修士課程）	理学専攻	15	11	0.73	30	26	0.87
	生命理工学専攻	25	16	0.64	50	41	0.82
	情報学専攻	35	22	0.63	70	49	0.70
	電子・機械工学専攻	35	15	0.43	70	50	0.71
	建築・都市環境学専攻	12	10	0.83	24	17	0.70
情報環境学研究科 （修士課程）	情報環境学専攻	40	25	0.63	80	59	0.74
未来科学学部	建築学科	100	99	0.99	400	447	1.12
	情報メディア学科	125	127	1.02	500	589	1.18
	ロボット・メカトロニクス学科	125	127	1.02	500	579	1.16
工学部	電気電子工学科	210	232	1.10	840	1007	1.20
	環境化学科	80	90	1.13	320	363	1.13
	機械工学科	210	243	1.16	840	1020	1.21
	情報通信工学科	110	120	1.09	440	518	1.18
理工学部	理工学科	600	613	1.02	2400	2802	1.17
情報環境学部	情報環境学科	240	272	1.13	*2990	1162	1.17
工学部第二部	電気電子工学科	50	55	1.10	200	245	1.23
	機械工学科	50	53	1.06	200	238	1.19
	情報通信工学科	50	48	0.96	200	231	1.16

※1 未来科学研究科ロボット・メカトロニクス学専攻は、2014（平成26）年度より入学定員40名→50名に増員

※2 情報環境学部の収容定員については、編入学定員（2・3年次各6名 計30名）を含む。

表1のとおり、学部全体の入学定員超過率については、概ね1.00の近似値を確保しており、適正な運営を行っている」と評価している。

一方、大学院修士課程において、未来科学研究科、工学研究科、理工学研究科、情報環境学研究科のほぼすべての専攻で入学定員を満たしていない。また、大学院博士課程（後期）においても、入学定員を満たしていない。

そのため、学内進学者数及び外部志願者（社会人を含む）を十分確保する観点から、より一層、積極的な広報を展開するとともに、大学院博士課程（後期）学位取得後のフォロー、支援体制や教育研究内容の魅力を高める施策を検討する必要がある。

なお、大学院修士課程及び大学院博士課程（後期）においては、2017（平成29）年度と2018（平成30年度）に予定している学部レベルの全学的改編に続く、2020（平成32）年度に予定する大学院改編と併せて、入学定員及び収容定員数の設定の適切性の検証をも視野に入れた検討を進めていく。

(2) 収容定員超過

表1のとおり、学部・学科、研究科・専攻ごとに増減があるものの、一部の学部・学科において収容定員1.20を超過している。

この状況については、次の2点が主な原因である。

- ① 過年度（主に2012（平成24）年度）における入学定員数（超過）
- ② 進級要件等に基づく留年学生数

この状況に鑑み、教育の質保証の対応を図りつつ、勉学意欲及び基礎学力の低い学生への十分なサポート体制をより一層充実させ、その結果、留年者を極力抑え、正規修業年限で卒業できるよう施策を講じていく。

また、情報環境学部における編入学定員（2年・3年次各6名計30名）の学生確保の状況は、0.57%となっており、社会人学び直しの世相への対応、大学全体の中長期的な計画の一環として、2015（平成27）年度より、これらの編入学定員を工学部第二部に移行した。

大学院修士課程における収容定員については、一部の研究科・専攻では収容定員を満たしているものの、前出のとおり入学定員の未充足状況により、多くの研究科、専攻において収容定員未充足となっている。

この状況に鑑み、大学院（修士課程）への学内進学者数の増加に向けて、学部在学学生へのアンケートを2ヶ年に亘り実施し、大学院進学に係る学生のニーズを把握し、実行に移すとともに、大学院進学の魅力に記載した大学院案内のパンフレットを作成し、学内外の広報に力を入れている。

また、大学院博士課程（後期）においては、ほとんどの専攻で収容定員を満たしていない。大学院博士課程（後期）の進学については、今後の社会に求められる博士課程（後期）の輩出増加に向けて、主に研究分野の魅力や研究成果の実学化、社会に対する寄与等を含め、研究推進社会連携センターとの連携、国内外の共同研究等を発展させながら、多くの学生を確保していく。